



「和をもって貴しとなし」

604年に聖徳太子は「十七条憲法」を制定します。当時、天皇をしのぐ力を持っていた豪族たちの暴走を防ぐ意味もあったと言われています。しかし、聖徳太子が求めた「和」とは、当時日本に入ってきた仏教の考えに強く影響を受けたものだと思います。仏教でいう和とは、誰か一人の考えにみんなが従うということではなく、一人ひとりの置かれた立場や状況を考えて、みんなで支えあっていくという考え方です。みんなで支えあっていくことが「和」ということになります。「和」を乱す行為とは、みんなと異なる行動をする人に対して使う言葉でなく、支えあう気持ちを捨てた人、弱者に対していたわる心を捨てた人の行いのことと仏教ではとらえます。自分の考えこそがすべて正しいとして、周りの人を従わせたり、全ての人が同じ行動や同じ考えを持つように強要させて、一糸乱れぬ状態を作ることは仏教では「和」とは言いません。「和」とはそれぞれのお置かれた状況を理解して、さまざまな考えを認め合い、その中で、自分の特性を生かしてそれぞれが協力するときに、そこに素晴らしい力があふれだすと仏教では説いています。

「和」の力は、どんなに有能な人間が一人で行動することより素晴らしい力と結果をもたらします。聖徳太子は「和」の心で日本をまとめようとしたわけです。仏教では、誰一人、無駄な無意味な人間は存在しないと説いています。「あの人間は、使えない！」そんな発言は、仏教の教えではありません。もし、そのようなことをいう人がいたら「あなたは、人を生かすが、できない人です」と逆に問い返されます。全ての人は顔も考えもそれぞれ異なります。しかし、誰一人として無意味な人間は存在しません。それぞれの人をそれぞれの人が支えあうところから「和」が生まれます。支えあう行動には必ず「感謝」が生まれます。お互いが支えあう中で「感謝」の心が共有されます。その気持ちをもって物事を進めたときに、みんなの心が一つになり、人の力では動かない大きな石も動き出すと仏教では言っています。

「和をもって貴しとする」……今の社会で大切にしなければならない教えだと思います。

クラスの友達一人ひとりのことを考えてみてください。支えあう関係とは、どんなクラスなのか……。卒業までの短い時間の中で立ち止まって考えてほしいと思います。

